

# 続・愛媛県の経済

## ～2020年産業連関表より～

2026年5月

# 1. 県内生産額と粗付加価値額

- 愛媛県の県内生産額は概ね横ばいで推移しており、1995年から10兆円前後でほとんど変わっていない。
- 内生部門、粗付加価値部門ともに5兆円前後、県内生産額に占める粗付加価値額の割合は概ね50%程度で推移している。
- 粗付加価値額の内訳をみると、雇用者所得が増加し、営業余剰が減少する傾向にある。



## 2. 域際収支

- 域際収支をみると、移輸入が300億円ほど減少した一方で移輸出は2,700億円ほど増加した。
- その結果、域際収支は2015年比でおよそ3,000億円改善し、▲2,757億円と赤字幅が半減した。



### 3. 一人当たり生産額等

- 2020年、愛媛県の一人当たり生産額はやや減少したが、基本的に生産額は増加傾向にある。
- 一方、一人当たり粗付加価値額は一進一退の状況にあり、なかなか増加軌道には乗れていない。
- 一人当たり雇用者所得は減少傾向だったのが2011年に底を打ち、増加に転じている。



(出所) 愛媛県産業連関表から四国銀行作成

## 4. 主要産業の変化

- 生産額では「商業」が最も大きく、「非鉄金属精錬・精製」「医療」「パルプ・紙・板紙・加工紙」が続く。
- 近年の変化としては、「非鉄金属精錬・精製」「その他の対事業所サービス」が年々上位に上がってきていること、「食料品」の順位が年々低下傾向にあること等があげられる。

### 【愛媛県における主要産業の変化】

	2000年	2005年	2011年	2015年	2020年
1位	商業	商業	商業	商業	商業
2位	医療・保健	医療・保健	医療	医療	非鉄金属 製錬・精製
3位	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	石油・石炭製品	住宅賃貸料 (帰属家賃)	医療
4位	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	住宅賃貸料 (帰属家賃)	石油製品	住宅賃貸料 (帰属家賃)
5位	公務	石油・石炭製品	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	非鉄金属 製錬・精製	パルプ・紙・ 板紙・加工紙
6位	食料品	金融・保険	公務	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	公務
7位	電力	公務	船舶・同修理	船舶・同修理	金融・保険
8位	建築	食料品	金融・保険	公務	その他の 対事業所サービス
9位	金融・保険	電力・ガス・ 熱供給業	非鉄金属 製錬・精製	金融・保険	石油製品
10位	公共事業	公共事業	食料品	食料品	食料品
全生産額に 占める割合	40.8%	42.9%	45.3%	43.8%	42.8%

## 5. 所得創出産業の変化

- 粗付加価値額の上位3業種には「商業」「住宅賃貸料（帰属家賃）」「医療」が並び、これに「公務」「教育」「金融・保険」といった業種が続いていたが、2020年には「その他の対事業所サービス」が順位を上げ、6位に入っている。
- 生産額が大きい「非鉄金属精錬・精製」や「パルプ・紙・板紙・加工紙」といった製造業は中間投入が大きいこともあって粗付加価値額では上位10業種に入らない。さらに、これら製造業の粗付加価値額は減少傾向にある。

### 【愛媛県の粗付加価値額上位10業種の推移】

	2000年	2005年	2011年	2015年	2020年
1位	商業	商業	商業	商業	商業
2位	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)	住宅賃貸料 (帰属家賃)
3位	公務	金融・保険	医療	医療	医療
4位	医療・保健	公務	公務	公務	公務
5位	金融・保険	医療・保健	金融・保険	教育	教育
6位	教育	教育	教育	金融・保険	その他の 対事業所サービス
7位	電力	道路輸送 (除自家輸送)	石油・石炭製品	その他の 対事業所サービス	金融・保険
8位	建築	電力・ガス・ 熱供給業	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	石油製品	介護
9位	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	建築	その他の 対事業所サービス	道路輸送 (除自家輸送)	道路輸送 (除自家輸送)
10位	公共事業	パルプ・紙・ 板紙・加工紙	食料品	船舶・同修理	建築
全付加価値額に 占める割合	48.9%	52.9%	51.9%	49.7%	47.8%

## 6. 外貨獲得産業の変化

- 「非鉄金属精錬・精製」と「パルプ・紙・板紙・加工紙」は、移輸出額でも純移輸出額でも1位、2位である。そのほか純移輸出額で「船舶・同修理」が3番目、「紙加工品」が4番目と、地場産業が外貨獲得産業として機能していることがわかる。
- 移輸出額は大きいが域際収支が赤字の産業として、「商業」と「食料品」がある。特に「食料品」は、2000年には720億円の黒字だったのが2005年には170億円の赤字に転落、2015年以降の赤字幅は拡大しており、時間の経過とともに外貨獲得力が失われている。

【愛媛県・2020年の外貨獲得産業】

(単位：百万円)

	移輸出額	移輸入額	域際収支	2015年比 (域際収支)
非鉄金属精錬・精製	637,099	▲141,431	495,668	106,904
パルプ・紙・ 板紙・加工紙	293,096	▲56,555	236,541	▲11,626
商業	276,138	▲349,367	▲73,229	▲30,548
石油製品	235,777	▲119,570	116,207	▲55,691
食料品	214,433	▲296,097	▲81,664	▲33,689
生産用機械	203,740	▲93,388	110,352	54,038
船舶・同修理	203,313	▲32,264	171,049	▲107,641
プラスチック製品	162,799	▲93,657	69,142	▲3,163
紙加工品	162,447	▲27,635	134,812	44,676
有機化学工業製品	152,566	▲93,210	59,356	20,263
合計	4,346,617	▲4,622,312	▲275,695	303,025

## 7. 愛媛県経済の総括

### (1) 愛媛県経済の動向

- 愛媛県経済は生産額、粗付加価値額とも伸び悩んでおり、経済的には順調とは言い難い。
- その要因として、主要産業である造船、製紙産業が難局にあることが指摘できる。造船は世界市場におけるシェアの低下など、製紙はデジタル化等による紙需要の低迷の影響で生産額は減少の一途を辿っている。
- 「非鉄金属精錬・精製」や「その他の事業サービス」といった成長産業もみられるが、他産業の落ち込みを補い切れていない。愛媛県にはほかに柑橘類、海面養殖業といった有力産業があるが、いずれも自然環境の変化や資材・物価の高騰などの影響を受けやすく、担い手不足も深刻で、将来的には懸念される点が多い。

### (2) 地場産業に代わる新産業の創出を

- 悪化傾向にあった域際収支は2020年に大きく改善され、域際赤字は半分以下になった。
- 「非鉄金属精錬・精製」などいくつかの製造業で収支が改善されたことが大きかったが、製紙業や造船関連産業、商業、食料品製造業といった主要産業の赤字は拡大している。今後の愛媛県を考えたとき、なんとかゲームチェンジャーとなりうる新産業を育てる必要がある。

#### Disclaimer

- 本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、取引の勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料は、当行が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。
- 本資料のご利用に際しては、ご自身の判断にてなされますようお願い申し上げます。本資料に掲載された情報を利用したことによって利用者等に何らかの損害が発生したとしても、かかる損害について当行は一切の責任を負いません。
- 本資料に記載された内容は予告なしに変更されることがあります。